

4 宮下遺跡

宮下遺跡と隣接する小房迫前遺跡は、ほ場整備事業に伴い平成6年（西暦1994）に発掘調査がされました。新城の鉄道公園周辺に位置します。

宮下遺跡から出土した代表的な遺構には、弥生土器を伴う堅穴式住居があります。また、古墳時代の層からは、地面が階段状に連なった跡がみつかりましたが、料学分析をしたところ、ここは柵田（水田）として利用されていたことがわかりました。

小房迫前遺跡からは、古墳時代（約1500年前）の住居跡や土器などが出土しています。



5 宮ノ前遺跡・重田遺跡

垂水市新城にある宮ノ前遺跡と、隣接する重田遺跡は、農道整備事業にともない平成11年度から平成12年度にかけて発掘調査が行なわれました。

宮ノ前遺跡からは、縄文時代後期（約4000～3000年前）から近世（約200年前）にかけてのいろいろなものが発見されました。

重田遺跡から縄文時代前期後半（約5500年前）の曾畑式土器や縄文時代中期初頭（約5000年前）の深浦式系土器などが発見されています。今のところ（平成25年4月現在）垂水市で発掘された最古の遺跡です。



6 迫田遺跡・森田遺跡

迫田遺跡と隣接する森田遺跡は、農道整備事業に伴い、平成11年度及び14年度に発掘されました。垂水市中俣の旧国鉄大隅線鉄道跡地内に位置します。

迫田遺跡からは、古墳時代（約1500年前）の成川式土器を始め、いろいろなものが見つっています。また、鉄剣も1振発見されています。

森田遺跡からも、古墳時代のいろいろなものが見つっています。



7 西ノ原遺跡

西ノ原遺跡は、平成17年9月の台風14号による災害復旧工事に伴い、平成19年度に発掘調査されました。牛根麓に位置します。

西ノ原遺跡からは、古墳時代（約1500年前）の土器溜りが検出され、成川式土器が大量に発見されました。



中世の豪族

～地方豪族が覇権を争った時代～

平安末期から安土桃山時代までは、争乱、群雄割拠の時代。垂水でも豪族たちの争いが起こります。

社領をめぐる争い、莊園さんしよくの蚕食さんじくによる紛争を鎮圧するため、西暦 1120 年、宇佐八幡から上総介舜清かずさのすけしゆんせいが来るも、莊園はますます旺盛となり、この地は近衛家莊園となります。後に鎌倉幕府は守護職に島津氏、その下に肥後氏、石井氏を地頭として任命しました。南北朝時代には肥後氏は南朝に属し、島津氏と戦いました。

西暦 1412 年、伊地知氏が地頭となり下之城（本城）に、牛根の地頭、池袋氏が牛根城に、田上城に梶原氏が居城しました。西暦 1522 年に肥後氏、西暦 1526 年石井氏が没落して、伊地知氏の勢力が強くなります。

伊地知氏、高山の肝付氏、根占の祢寝氏連合軍と三州統一を目指す島津軍との間に十数年にわたる大擾乱たいじょうらんが起こりました。始めは肝付連合軍が優勢でしたが、激戦を重ねた末、下大隅の早崎、小浜、牛根城を失って西暦 1574 年、ついに伊地知氏は島津氏に降伏しました。その後、伊地知氏の領地は鎌田氏、川田氏、敷根氏に分割され、伊地知氏は僅かに下之城のみを与えられました。

西暦 1599 年、島津家第 15 代太守貴久ただまさの次弟忠将ゆきひさの子、以久が下大隅の領主となった時、地頭は廃せられ、以後、明治維新までこの地は垂水島津家が支配しました。

山城・古戦場



⑧ 田上城

梶原氏築城とされています。

鎌倉幕府も北条氏の勢力が強くなった頃、梶原景時は鎌倉を追われ、島津忠久を頼り、薩摩へ逃れ、秘密裏に築城されたと言われています。

城主：梶原氏→祢寝氏→敷根氏



⑨ 高城

肥後氏は種子島氏の祖となっている平姓肥後守信基の支族で平清盛の曾孫とも言われています。高城は信基の二男、信行の築城とされ、時代は北条氏が執権となった初めごろと言われています。

城主：肥後氏→伊地知氏→鎌田出雲守政近



⑩ 本城（古くは下之城）

伊地知氏の城址、伊地知氏は戦国時代、豪族たちが興亡盛衰を繰り返す中であって肝付、祢寝と手を取り合い、薩摩の島津氏に対抗しました。

城主：池袋氏→伊地知氏



⑪ 垂水城（荒崎城）

保安元年（西暦 1120）宇佐八幡宮より来た上総介舜清が最初の城主と言われています。この時期は平治の乱より 30 年、頼朝が守護地頭を全国におく 66 年前で白河院政期の末ごろです。当時、垂水で神戦があり、神貫大明神と手貫大明神が争い、舜清の下向は神貫大明神の援軍ではないかとされています。

垂水城はしばらく廃城となりますが石井氏、伊地知氏、川田氏、島津氏を経て、林之城築城後は廃城となり、現在に至っています。



⑫ 牛根城

松ヶ崎城とも入船城とも言われています。源氏の追手に備え、平氏が砦を築いたと言う説も。後に牛根氏、池袋氏、建部宗政、本田薫親ただちか、肝付兼統、安楽備前守らが城を守ってきました。



⑬ 咲花平

三州統一のため、島津氏は肝付、祢寝、伊地知連合軍と十数年の間、激しく戦い、この地も 2 度戦場となりました。島津義久は弟歳久に命じ、ここを攻めさせ、島津勢の急襲に肝付、伊地知の兵は退路を断たれてしまい慌てふためき断崖から飛び降りました。その様子が花が散るように見えたため、ここは「咲花平＝サッカーピラ」と呼ばれています。

また、肝付方の大将、河南安芸守は唐傘を落下傘にして降り立ったという妖説もあります。